

# 被災地の「今」学ぶ

観光客の減少や避難者の受け入れについて質問する生徒＝会津若松市



## 会津で全国の中学生

### 米検査を見学 観光復興質問



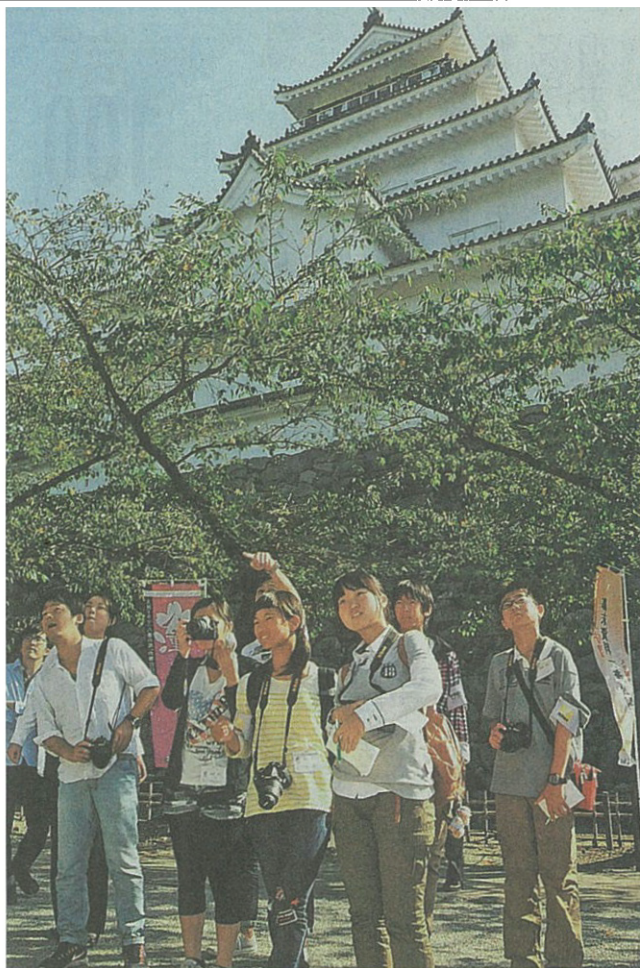
「写真で綴(つづ)る、被災地の『いま』」

を伝えるプロジェクト」で二十一日に会津若松市と会津美里町を訪れた全国の中学生五人は、観光や農業への風評被害、復興への取り組みなど被災地の今

を学んだ。



米の放射性物質分析検査を見学する中学生会津美里町



鶴ヶ城で観光復興について学ぶ中学生会津若松市

会津美里町では農業生産法人「米夢の郷」や米の放射性物質分析検査の様子などを見学し、理解を深めた。検査が行われている施設にも、震災直後には多くの避難者が生活していたことなどが紹介された。昼食時には当時、提供されていた塩おにぎりも出された。

鶴ヶ城では、天守閣解説ガイドから、誘客のために努力していることを学んだ。関係者は震災後の来客があった時は言葉にならないくらい紹介した。福島民報社などが取り組む「スマイルとうほくプロジェクト」の一環。今回は青森、埼玉、奈良、長野、沖縄の生徒五人が訪れ、フットジャーナリストの安田菜津紀さんとお笑いコンビ「ロザン」の宇治原史規さん、菅広文さんも同行した。

会津若松市の會津稽古堂では会津若松観光物産協会や東山温泉の関係者が震災後の観光客減少、避難者の受け入れ状況などを説明。

# 中学生 会津で取材

## 被災地伝える プロジェクト 全国から5人参加



東日本大震災の被災地を全国の中学生が取材する「写真で綴(つづ)る、被災地の『いま』」を伝えるプロジェクト」で、沖繩の生徒ら五人が会津若松市と会津美里町を訪れた。鶴ヶ城や加工米工場を訪れ、観光や農業への風評被害、復興への取り組みなどを学んだ。被災地に笑顔を広げ、全国に東北を発信

する福島民報社、河北新報社、岩手日報社が合同で取り組む「スマイルとうほくプロジェクト」の一環。ニココンが特別協賛している。中学生は清藤瑞生君(青森市立南中一年)、新堀雄大君(さいたま市立大宮西中二年)、正岡ひかるさん(奈良市・奈良学園登美ヶ丘中三年)、南河凜さん(長野県上田市長和町組合立依田窪南都中一年)、福里奈々さん(沖縄県浦添市立浦添中三年)の五人。フォトジャーナリストの安田菜津紀さん(三宅とお笑いコンビ「ロザン」)の宇治原史規さん(三宅)も、菅広文

さん(三宅)も同行した。一行は、会津美里町の農業生産法人「米夢の郷」を訪問。コメの放射性物質分析検査の様子や加工現場などを見学し、田んぼで稲刈りを体験した。猪俣道夫工場長(釜巴)から、震災後、関西の業者から

取引をストップさせられた経験や安全のための取り組みなどを聞いた。渡部英敏町長も中学生を歓迎し、地元産のおにぎりと芋煮を一緒に味わった。会津若松市の會津稽古堂では会津若松観光物産協会の渋谷民男統括本部長(釜)と東山温泉の原龍・今昔亭の平賀茂美総支配人(釜)が震災後の観光客減少、

避難者の受け入れなどを説明した。鶴ヶ城では、天守閣解説ガイドの遠藤優貴さん(釜)から、修学旅行客数の回復のために努力していることを学んだ。清藤君は「農業を諦めなかったのがすごい。正しい情報を正しく理解することが大切だ」と述べ、正岡さんは「風評被害の恐ろしさを知った。福島では

おいしいものがたくさんあり、みんなが助け合っていることを友達に教えたい」と話した。

訪問の様子は安田さんが本紙に月一回連載する「被災地を見たよ」で紹介する。



鶴ヶ城を訪れ、観光などについて学んだ中学生ら(左)会津若松市



コメの販売状況や安全性について質問する中学生(左)会津美里町